


|                |  |     |          |
|----------------|--|-----|----------|
| 授業科目名          | 医療者プロフェッショナリズム (Medical Professionalism)   |     |          |
| 対象学年           | 1年生  | 単位数 | 2単位      |
| 科目責任者          | はすめま なおこ<br>蓮沼 直子  | 所属  | 医学教育センター |
|                |  |     |          |
| 科目<br>コーディネーター | はすめま なおこ<br>蓮沼 直子  | 所属  | 医学教育センター |
|                |  |     |          |
| 授業方法           | <p>本科目は、90分の講義コマ2コマを続け1回の時間を180分として行う。一部を除きほぼすべてをワークショップ（グループワーク）形式で行う。用いることのあるグループワークの手法は以下の通りである。</p> <p>1) グループワーク<br/>与えられたテーマについてグループごとに討論し、グループとしての考えを成果（プロダクト）としてまとめ、パワーポイントなどに発表資料を作成し発表する。</p> <p>2) ペアワーク<br/>二人一組になり、指示に従いディスカッション、説明などを行う。事後お互いにフィードバックをおこなう。</p> <p>3) ロールプレイ<br/>コミュニケーションワークショップなどにおいて、実際の場面などを想定しそれぞれが役を演じ、疑似体験を通してスキルを身につけ学修する。事後に観察者も含めお互いにフィードバックを行う。</p> <p>各グループワークの前には事前学習課題を出すことがあるので、その際は学生は事前にそれを読んだ上で授業に参加すること。</p>  |     |          |
| 概要             | <p>プロフェッショナリズムとは、医師としての価値観、理想、責任感、使命感および、それらを自らの行動にどう体現するかの方法論が統合されたものである。本科目ではプロフェッショナリズムを以下のように定義する。</p> <p>1) 他者に対するプロフェッショナリズム<br/>相手の立場にたった良好なコミュニケーションをとれる<br/>患者、家族などに対して誠意と思いやりをもって配慮ができる<br/>同僚に対して敬意と親愛をもって接し、協働できる</p> <p>2) 自分に対するプロフェッショナリズム<br/>常に学習し自らを向上させる姿勢をもつ<br/>自分の限界をわきまえ、他者からの助言を自分の糧にできる</p> <p>3) 社会に対するプロフェッショナリズム<br/>社会から期待されている役割を果たす<br/>医師としての社会的責任を果たす<br/>社会のルールを守り、医療資源を適切に使用する</p> <p>プロフェッショナリズムは医師が備えるべき基本的資質・能力として欠くことのできない重要なものであり、6年間の在学中を通じて確実に身につける必要がある。本科目では、6年間の教育の最初の一步として、プロフェッショナリズムとは何かをグループ討議の中で考え、自分なりの基本的な考えを確立することを目標とする。</p> <p>また、グループワークを行うことで、他者との協働に慣れ、協働のなかで学習する習慣を身につけることも目指す。</p> |     |          |

|         |  |
|---------|--|
| 到達目標    | <p>患者中心の視点を持ち、患者の心理、患者の願いを説明できる。<br/> 患者の問題を解決するために医師に期待されている役割を説明できる。<br/> 医師の専門性と社会における役割を説明できる。<br/> 生涯学習の重要性を説明できる。<br/> 医学部卒業後のキャリアパスについて理解し、自分自身の将来像について言語化できる。<br/> 自らの判断・意志で継続的学習を行うことができる。<br/> 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。<br/> コミュニケーションの方法と技能を理解し、活用できる。<br/> 多様性について理解し、受療上の問題点について説明できる。<br/> 具体的な臨床事例に文化・社会的課題を見いだすことができる。<br/> 効果的な対人コミュニケーションを説明できる。<br/> 話し手と聞き手の役割を説明でき、適切なコミュニケーションスキルが使える<br/> グループで協働して作業を進め、学習し、グループのために役割を果たすことができる。<br/> グループワーク、TBL、ペアワーク、ロールプレイなどの基本的技法を修得し、効果的にワークショップを進めることができる。<br/> アカデミックライティング：課題について、ルールに従ってわかりやすく書くことができる。<br/> また適切にピア評価を行うことができる。<br/> R4年度改訂版医学教育モデルコアカリキュラムとの関連</p>  |
| 講義日程    | 第1ターム木曜日1～4限<br>2コマを続けたグループワークを計8回行う。別表参照のこと。  |
| 出席の取り扱い | 各回、グループワークなどのワークショップのため、原則すべての講義に出席すること。<br>出席は基本的にはMicrosoft Formsで確認するが講義中のプロダクトの提出、その他の方法を併用することがある。講義中の指示をしっかりと聞くこと。   |
| 評価項目    | Formsによる講義要約、各グループワークでのピア評価、プロダクトに対するグループ評価、TBLの際の小テスト（個人、グループ）の成績、個人のレポートの評価などを総合して評価する。  |
| 評価法     | 総合得点60点以上をもって単位を認定する。  |
| 推奨参考書   | 【購入を推奨する参考書】<br>特になし   |